

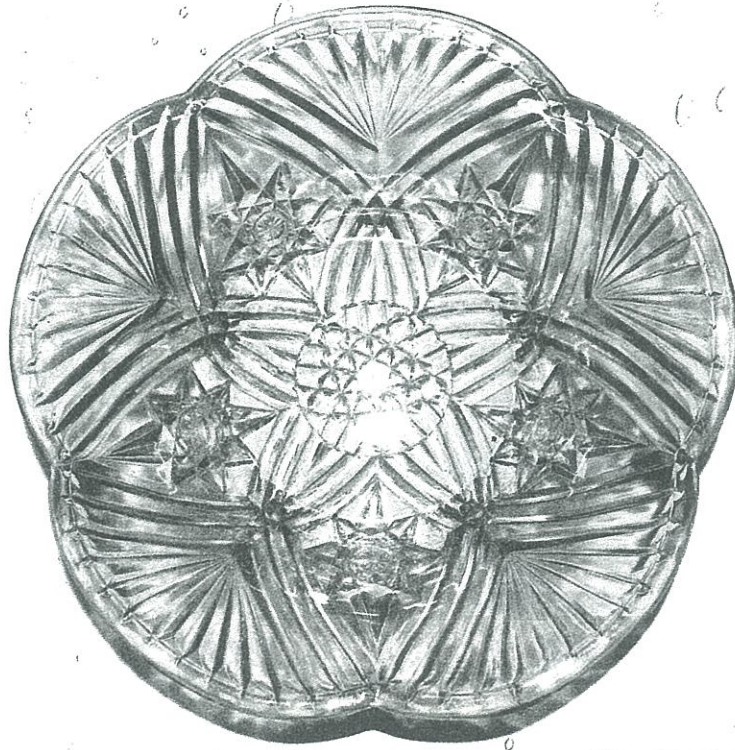
れき じん

# となん歴史民だより vol.63

Morioka tonan history and folklore museum

令和2年7月31日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



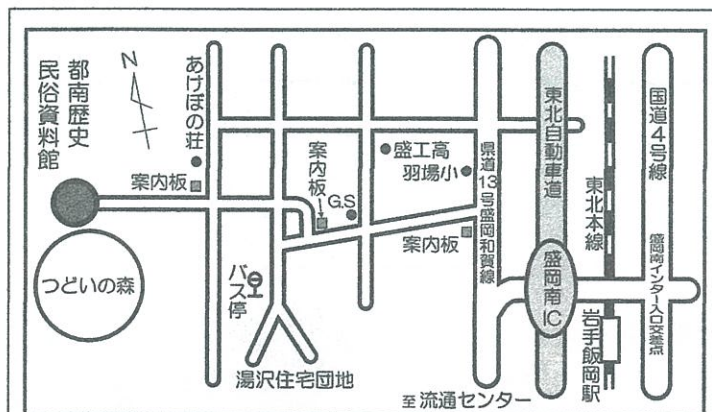
鎌田隆氏所蔵 プレスプレート

## 是非ご来館ください。お待ちしております。

### — もくじ —

- 市民参加展「ガラスのう  
つわ」のご案内
- かけはしの会活動報告
- 資料は語る(63)
- 盛岡市所在  
指定・登録文化財紹介(63)
- となんの先人⑥

### MAP☆ACCESS



★「都南つどいの森」の案内板を目印にお越しください★

### ○利用案内

#### 開館時間

午前9時から  
午後4時まで

#### 入館料

無 料

#### 休館日

月曜日  
(休日に当たると  
きは、直近の平日)、  
年末年始

# 市民参加展 「鎌田コレクション ガラスのうつわ」 開催のお知らせ

令和2年6月20日（土）～8月23日（日）

日本でガラス製品の大々的生産が行われ、日常生活に用いられるようになったのは明治期以降のことです。その便利さだけでなく、見た目の美しさからも人々に愛好されており、ペットボトル等が普及した現在も幅広く使用されています。

本展では、盛岡市在住の鎌田氏が収集した、主に昭和期のレトロで懐かしい品々を通じて、日常生活を彩ったガラス容器の魅力を伝えます。

## 第一章 涼をよぶガラス

かき氷を盛りつけるための器を「氷コップ」と呼びます。カラフルで可愛らしいため、多数のコレクターがいます。かつては一銭店（駄菓子屋）においてこのような器でかき氷を提供していました。

見た目にも涼やかな氷コップを多数展示します。

## 第二章 ガラスのびん

透明で中身が見えるガラスびんは、ペットボトルが普及するまで、様々な商品に用いられました。そのため大きさや形のバリエーションが実に豊かです。コーラやサイダー、ラムネ、牛乳、ビールなどの飲料はもちろん、白粉などの化粧品、薬品などの小さなびんを多数展示します。

## 第三章 暮らしとガラス

コップ、醤油さし、ランプ、インクびんとガラスペン、蠅取り器など、生活用品の中にはガラス製品が多数ありました。ガラスがいかに生活に密着していたのかをご紹介します。

また、ブラックライトを当てると妖しく光る性質をもったウランガラスや、棒状の蠅取り器など、普段なかなか見られないガラス製品も展示します。



氷コップ  
縁は桃色で、刻みがあり輪花形になっています。杯は乳白色のぼかし、脚と台は透明です。



### ←コカ・コーラのびん

特徴的なこのびんは「コンツアー（contour：輪郭の意）ボトル」と呼ばれるもので、模造品の流通を防ぐために個性的な形にデザインされました。そのため、暗闇でも触れただけで何の商品かわかるといいます。

当時流行していたホブスカー（ウエストで締まり、ヒップラインで膨らみ、膝から下へ向けて細くなるタイトスカート。Hobbleはよるよる歩きの意）を参考に考案されたともいわれています。

1915年（大正4年）に発案され、翌年から市場に出回り始めました。



### ←むらた神薬のびん

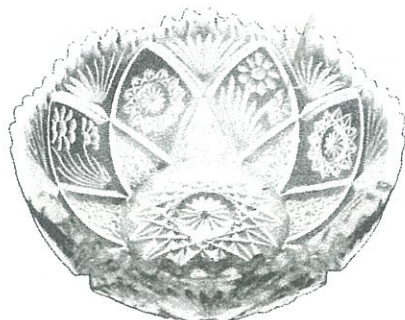
高さ9.4cmの小さなコバルトブルーのびんです。胴部には右から「SHIN-YAKU」「むらた神薬」「邑田資生堂」と陽刻されています。

神薬とは気つけ薬のことで、万能薬として使用されていましたが、昭和51年（1976）にクロロホルムの使用が禁止されると姿を消しました。

なお、邑田資生堂と現在の化粧品メーカー・資生堂は異なります。明治期には本町資生堂、室町資生堂などのように〇〇資生堂を名乗る会社が多数あり、邑田資生堂もそのひとつです。現存する資生堂は元祖の福原資生堂で、調剤薬局から始まりました。

レート白粉→  
平尾賛平商店から発売されたおしろいのびんです。「レート」のブランドで一世を風靡した会社で、「クラブ」の商標で人気を博した中山太陽堂と並んで「西のクラブ、東のレート」と呼ばれました。明治11年(1878)に創業し、昭和29年(1954)に廃業しました。

なお、「よこはま・たそがれ」「わたしの城下町」などで有名な作曲家・平尾昌晃は、2代目社主であり2代目平尾賛平を襲名した平尾聚泉(しゅうせん)の孫にあたります。



#### ←ウランガラス

緑色のガラスで、着色剤として微量のウランが使用されているため、紫外線を当てると蛍光色に光ります。

1830年代のボヘミア(現在のチェコ)で製造が始まり、日本でも大正から昭和の始めにかけて盛んに製造されました。しかし、第二次世界大戦中、アメリカから原子爆弾の原料ともなるウラニウムの輸入が禁止されると、日本での大々的製造は終焉を迎えました。(現在は生産が再開されています。)

※含まれているウランの量はごく微量ですので、放射線の心配はありません。



## 「となん・かけはしの会」活動報告

### 1 第1回茶話会

今年度第1回茶話会は、6月13日(土)に開催されました。講師は紫波町の野村胡堂・あらえびす記念館館長杉本氏で、「時事川柳で読み解く大正・昭和の世相」と題しお話しいただきました。時事川柳は時代背景や政治的要素をよく写していることを示し、具体例を挙げて当時の世相を解説していただきました。

なお、会場は都南公民館をお借りし、密にならないよう配慮のうえ行いました。

### 2 歴史探訪ウォーキング

今年度の新規事業である歴史探訪ウォーキングを、6月25日(木)に実施しました。会長と館長を講師とし、時折小雨にうたれながら大慈寺町・鉦屋町・寺の下地区を散策しました。訪問した場所は主に以下のとおりです。

もりおか町家物語館広場集合—円光寺—明治橋標柱—下町史料館—千手院—祇陀寺—連正寺—  
—長松院—久昌寺—かわ広にて昼食—大慈寺—永泉寺—らんかん児童公園—松尾神社

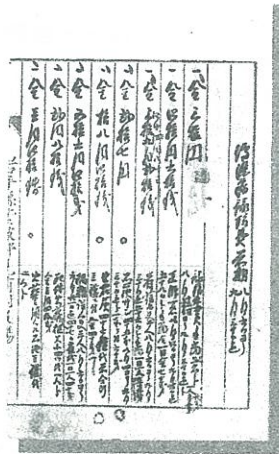
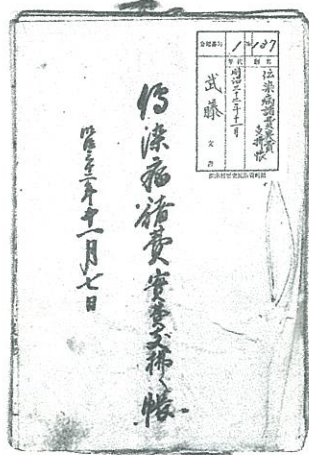
なお、下町史料館様、千手院様、連正寺様、久昌寺様、永泉寺様には解説や拝観へのご配慮をいただき、たいへん有意義な研修となりました。この場をお借りして御礼申し上げます。



下町史料館館長にお話をお伺いしました



奕葉山久昌寺山門にて記念撮影



【伝染病諸費実費支払帳】明治32年(1899)11月7日付

現在新型コロナウイルス感染症に立ち向かっているように、歴史上、人類は数々の感染症と戦ってきた。かつて人々を震え上がらせた赤痢もそのひとつである。

明治32年(1899)、見前村では24名の赤痢患者が発生した。8月6日に隔離病舎を開設し16名を收容、8名が死亡した。ほか隔離病舎に收容されなかった伝染病患者2名の犠牲も出た。参考までに、同年の見前村の人口は3,071名である。隔離病舎は9月21日に閉舎になった。

隔離病舎の詳細は不明だが、医師・看護師を招き、消毒用の石炭酸・石灰、薬品などを購入したことがわかる。また、人夫を10人雇用するなど、火葬のための出費項目が多く、事態の重さを物語っている。

国指定天然記念物



シダレカツラ (写真左側は門、右側は肴町)

『となん歴史民だより』vol. 1では大ヶ生の瀧源寺にあるシダレカツラをご紹介しましたが、そのひこばえを移植した2本のシダレカツラも同じく国の天然記念物に指定されています。

門の個体の樹齢は約140年、肴町は約120年と推定されています。もとは花巻市大迫町で発見されたものが、大ヶ生の瀧源寺に移植され、さらに門や肴町へ移植されました。

現在は、これらのほかにも、市内や県外で数多くのシダレカツラが見られるようになりました。昭和期に阿部善吉氏が長年研究を重ね、接ぎ木による増殖を可能にした功績によります。※民有地につき上記2本は周囲からご覧ください

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)  
長岡高人編『もりおか物語(壹)惣門かいわい』(1973)

図書貸し出しのご案内

盛岡市都南歴史民俗資料館では、図書の貸し出しを行っています。都南地域の歴史を調べたい方はどうぞご利用ください。

【貸出期間】  
一般：1か月間  
かけはしの会会員：2か月間



『となんの民話』  
が人気です  
おすすめですよ！

参考文献『都南村誌』(都南村誌編集委員会、一九七四)

同二十九年(一九五四)十月二十八日、病のため七十一歳で逝去した。

となんの先人⑥ 小笠原 政一

教育功績者・小笠原政一は、明治十八年(一八八五)十二月二十五日、都南村永井に生まれた。同四十一年(一九〇八)三月に公立岩手師範学校(現岩手大学教育学部)を卒業すると、同時に飯岡尋常高等小学校(現盛岡市立飯岡小学校)の訓導となり、大正六年(一九一七)まで教鞭を執った。

その後、古館尋常高等小学校訓導兼校長、片寄小学校長、東磐井郡視学(視学とは地方教育行政官のこと)、県視学、黒沢尻小学校長、千厩小学校長を歴任し、昭和十四年(一九三九)三月に退職した。

退職後も県教職員互助会事務局長、県精神総動員初代主事に就任し、同二十七年(一九五二)飯岡村教育委員に選ばれ、飯岡村初代教育長となった。戦後の民主教育への転換期に直面しながらも諸問題をよく処理し、齢を忘れて新教育制度の確立に努力した。明治、大正、昭和の時代を変貌する教育制度と共に歩んできた先達者といえよう。